

平成25年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	
		評価指標		評価指標による達成度	自己評価	総合評価		
小学部・中学部 ・高等部の一貫したキャリア教育	【中期目標】 ・地域社会の中で自分らしく豊かな生活を送ることをめざし、系統的・組織的な教育活動の充実を図る。 1年目 ・自立や社会参加をめざし、校内における教育の充実を図る。 2年目 ・地域社会及び関係諸機関との連携のもと、実践的な教育活動の充実を図る。 3年目 ・児童生徒一人一人に応じた、支援体制の充実を図る。	学校全体	・日々の教育活動の充実に役立てるため、進路学習年間指導計画を作成する。	・小学部・中学部・高等部ともに進路学習年間指導計画を作成することができた。	A	（評定） A	<ul style="list-style-type: none"> 小学部・中学部・高等部の一貫したキャリア教育に視点をあて、継続的な取り組みがなされており、結実されつつあると感じる。具体的に指摘するならば、例えば、「小学部・中学部・高等部が合同で保護者の施設見学を行う」。 評価指標として回数が増えられ、それに伴った結果は示されているが、実施の有無（回数）だけでなく、それによって得られたこと（成果）が重要ではないか。 キャリア教育を標榜するのであれば、「鴨島支援学校の教育」への波及効果（例えば、教育課程の改善など）が求められると思う。今後の取り組みを期待している。 	
		各学部	【小学部】 ・進路学習年間指導計画に関する検討会を年間2回以上実施する。 ・外部講師を招き、進路学習を1回実施する。	【小学部】 ・進路学習年間指導計画に関する検討会を2回実施した。 ・外部講師を招き、進路学習を1回実施した。	A			（所見） ・各学部とも、児童生徒の実態に応じた指導計画を立案し、進路学習を行った。 ・中学部・高等部の生徒、保護者、教員による施設見学を実施し理解を深めることができた。
			【中学部】 ・進路学習年間指導計画に関する検討会を年間2回以上実施する。 ・施設見学を1回実施する。 ・外部講師を招き、進路学習を1回実施する。	【中学部】 ・進路学習年間指導計画に関する検討会を2回実施した。 ・施設見学については、当日悪天候により中止となり実施できなかった。 ・2学期に外部講師を招き、進路学習を実施した。	B			
	各学部	【高等部】 ・進路学習年間指導計画に係る検討会を年間3回以上実施する。 ・生徒の実態に応じた就業体験や施設実習及び施設見学を実施する。 ・外部講師を招き、進路に係る実践的な授業を実施する。	【高等部】 ・進路学習年間指導計画に係る検討会を5回実施した。 ・就業体験では、職場実習を2回、施設実習を6回、施設見学を6か所実施した。 ・外部講師を招いての進路学習を2回実施した。	A	・小学部・中学部においても進路学習を実施したり、施設職員の方の協力により「ものづくり」として作業体験を行うことで、早い時期から進路に対して考えることができた。			
【短期目標】 ・地域社会及び、関係諸機関との連携のもと、実践的な教育活動の充実を図る。	学校全体	活動計画	・個々の児童生徒にとって「豊かな生活」とは何かを考え、「目指す将来像」をイメージした進路学習年間指導計画を作成する。	活動計画の実施状況		・保護者に対しても、早い段階から子どもの将来について考える機会を提供できた。	次年度に残された課題 <ul style="list-style-type: none"> 小学部・中学部・高等部が同じベクトルを持って進路学習を行うことができるよう、進路指導担当者を核とした体制の一層の整備。 児童生徒が生活しやすい環境の整備に向けて、地域社会及び、関係諸機関との連携を深めていく。 	
	各学部	【小学部】 ・進路学習年間指導計画の様式の検討や評価に関するケース会を実施する。 ・「ものづくり」（うどん・パン・ケーキ等）について体験型授業を実施する。	【小学部】 ・1学期、3学期に1回ずつ進路学習年間指導計画に関する検討会を実施した。 ・進路学習「ものづくり」では、施設職員を招聘し「マドレーヌ」を作る体験をした。	【小学部】 ・進路学習年間指導計画の様式の検討や評価に関するケース会を実施した。 ・校外学習において地域の施設や事業所等を見学することについては、計画したが当日悪天候のため実施できず、再度の計画・実施については、	・高等部では、公的機関での職場実習を行うとともに、ICTを扱う事業所の方から講話をいただくことにより、			
		【中学部】 ・進路学習年間指導計画の様式の検討や評価に関するケース会を実施する。 ・校外学習において地域の施設や事業所等の見学を実施し、高等部へのスムーズな移行を図る。	【中学部】 ・進路学習年間指導計画の様式の検討や評価に関するケース会を実施した。					

	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり」（うどん・パン・ケーキ等）について体験型授業を実施する。 	他の行事等の関係で困難であったため中止となった。 ・「ものづくり」は、施設職員を講師に招き、「マドレーヌ」作りを行った。	卒業後の就労に向けての意識を高めることができた。
	【高等部】 <ul style="list-style-type: none"> ・進学や就労及び社会参加に必要な力について検討し、整理する。 ・事業所や福祉施設と連携を図り、生徒の実態に応じた体験的な進路学習を行う。 ・事業所や福祉施設の関係者を招き、就労に必要な力について具体的に学ぶ。 	【高等部】 <ul style="list-style-type: none"> ・進路学習年間指導計画の様式を検討することで、卒業後に必要な力について考える機会となった。また、自立活動の中での進路学習の位置づけについて整理を行った。 ・県立総合教育センターなど新しく実習先を開拓し、生徒の実態や卒業後の生活を考慮した個に応じた体験学習を実施した。 ・ICTを扱う事業所の職員を招き、事業所の紹介や就労に向けて在学中に身につけるべきことについて学んだ。また、食品を扱う就労支援センターの職員を招き、講話や体験をとおして就労に向けての心構えなどを学んだ。 	

平成25年度 学校評価（総括評価表）

徳島県立鴨島支援学校 No.2

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価			学校関係者評価 学校関係者の意見
		評価指標		評価指標による達成度	自己評価	総合評価	
地域と連携した 防災教育	【中期目標】 地域及び関係機関と連携した防災教育の充実を図る。 1年目 教職員の防災意識の向上を図る。 2年目 防災対策の充実を図る。 3年目 実践を通して防災対応力を高める。 【短期目標】 ・教職員の防災体制の充実を図る。	学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の講師を招いた研修等を年3回実施する。 ・地域と連携した防災活動を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の講師を招いた研修を4回実施した。 ・隣接する病院に避難訓練(年2回)時の応援依頼や協力の要請をした。敷地地区防災訓練に職員代表が参加した。 	A	(評定) A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と連携した活動として、地域のオリエンテーリングによる危険箇所の確認だけでなく、学校が主催する訓練や研修及び学校行事に地元自治会の方に参加をいただいているが今後ともつながりを維持して欲しい。 ・学校が2つの町に接しているので、鴨島町側だけでなく川島町との連携を図る必要がある。 ・災害時の児童生徒の保護者への引き渡しについてマニュアルはできているが、実際には多くの車が集中するので誘導が課題である。 ・飛散防止フィルムにつ
		各学部	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動を年3回以上行う。 ・交流及び共同学習等を通じて、児童生徒の実態や活動の様子を年3回以上情報発信する。 	【小学部】 <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を3回実施した。 ・学校間交流や地域交流の場で、防災に向けた取り組みの様子や児童の活動の様子をパネル展示したり、ホームページに掲載したりして情報発信した。 	A	(所見) <ul style="list-style-type: none"> ・防災活動については、隣接する病院や施設への避難訓練を実施することで、大規模災害時の児童生徒の安全確保について確認することができる。とともに、地域との連携を図れた。 	
			【中学部】 <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を4回実施した。 ・学校間交流や地域交流の場で、防災に向けた取り組みの様子や生徒の活動の様子をパネル展示したり、ホームページに掲載して情報発信することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の交流校との合同作品展において、本校の防災学習についてのパ 		
【高等部】 <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を年間5回実施した。 ・学校間交流や地域交流の場で、防災に向けた取り組みの様子をホームページやパネル 	A						

- ・地域防災組織との連携を図る。
- ・学部の実態に応じた防災教育の充実を図る。

展示で年間6回情報発信した。

活動計画

- 学校全体
- ・研修会や講習会に参加し、防災対応の具体策を検討する。
 - ・近隣施設とさらに連携を深め、充実を図る。

活動計画の実施状況

- ・講師を招いた研修会の実施により、気象情報や緊急地震速報の活用、災害時の対応や応急処置について具体策を学んだ。
- ・通学路の調査をし、防災マップをもとに危険箇所を確認をした。災害時に児童生徒を一時的に学校で待機させた場合を想定し、引き渡しの手順や「引き渡しカード」の活用について取り決めを行った。
- ・大地震発生時に割れる危険性の高い窓への飛散防止フィルムの貼り付けを、県立川島中学防災クラブの協力のもと実施した。
- ・隣接する施設や病院の方に、校内研修会に参加いただくとともに、防災担当者同士の協議を行うなど連携を図った。
- ・地域自治会の方に、避難訓練や防災研修会、オリエンテーリング等に、参加していただき交流を深めた。

各学部

- ・児童生徒の実態に応じた防災に関する学習を行い、避難対応の具体策を検討して実践する。
- ・児童生徒の防災活動の様子を写真や文章でまとめ、広く地域社会に発信する機会を設けて理解と啓発を進める。

【小学部】

- ・防災非常食の試食や緊急地震速報を受けての一次避難の訓練、隣接施設までの避難経路の確認と徒歩避難の実践をおこなった。
- ・学校祭やふれあい交流会、ふれあい交流作品展などにおいてパネル展示をおこなったり、学部での防災学習の様子をホームページに掲載したりして、情報発信をおこなった。

【中学部】

- ・防災学習で、オリエンテーリングに取り組み、学校周辺の地形や地域の様子を学んだり、防災グッズ、非常食についての学習をしたりした。
- ・防災学習の内容については、学校祭、交流校学校祭、ふれあい交流作品展、ふれあい交流会においてパネルを展示したり、ホームページに掲載したりして情報発信をした。

【高等部】

- ・地域の方を招いてのオリエンテーリング、暑さ対策、発電機の使用、非常食体験、防災備品の活用、クロスロード、寒さ対策、段ボール箱で

ネル展示をするとともに、各学部の防災学習の様子をホームページにアップすることで、本校の取り組みを発信することができた。

- ・保護者、関係機関、地域との関係がより深まった。

- ・各学部の児童生徒の実態に応じた防災活動（防災学習）を行った。特に、非常食の試食では一人一人の状態に応じた支援内容が確認でき、災害発生時の安全安心な対応に資することができた

いては、まず、守るべき場所（保健室など）を決めてそこから順に広げていくとよい。

- ・これだけ豊富な内容の取り組みをしている学校は少ないのではないかと。全体として先進的な取り組みをしており心強い感じがする。

次年度に残された課題

- ・地域との連携をさらに深め、災害発生時における本校への支援体制の構築をより一層進める必要がある。
- ・児童生徒の防災学習を継続して進めることで、防災対応力の向上に努めたい。

足湯，引き渡し訓練等を実施した。学部全体で生徒の実態に応じた防災学習を実施することができた。

- ・学校祭，交流校学校祭，ふれあい交流作品展，ふれあい交流会において，防災活動の様子をまとめたパネルを展示して地域社会に情報発信をした。